

まるで、掴まるところのない
ジェットコースターに
乗っているかのようでした



小岩眞さん(71)

磐井川の山目側、磐井橋のたもとに住んでいた小学6年から2年続いでカスリン・アイオン台風を体験。現在はあいぼーとのボランティアガイドを務める。中央町。

知らぬ間に家が動き出しました。地主町の火災で突然あたりが明るくなり、同じ屋根の上にいる近所の人や家族の表情がよく見えました。あきらめ顔の人もいましたが、自分は何としても生き残ると子どもながらに思いました。家は回りながら川の本流に入り、だんだんつかまるものが小さくなって、ついに家族と別れ父と二人になりました。東北本線の黒々とした鉄橋が見えてきました。その下をくぐるとすぐ下流で2、3回巨大な波に翻弄され、もうだめかと思いました。掴まるところのないジェットコースターに乗っているようでした。下之橋に近づくころには流れがゆるやかになり、大きな針葉樹に漂着しました。そこには家の残がいや流木などが複雑に積み重なっており、わたしはそこにはまって身動きができず、腰から下は水の中でした。寒さと眠気が襲ってきて、気が付くと父と一緒に舟の上に助け出されていました。

結局、祖母、母、妹二人を失いました。二つの台風は、一閃の運命を変えた天災でした。戦時中に山の木を切り尽くしたため、人災だという人もいます。現在はあいぼーとのボランティアガイドを務め、機会があれば水害体験を話すこともあります。今は水の怖さを知らない若い人が増えて、水害に無関心な人が多いような気がします。日常からハザードマップを見ながら避難経路を確認するなど、備えは大切なことだと思っています。

助け出された瞬間に
足元の木が流れていつて

アイオン台風の時は、山目花川戸(現中央町)の信夫楼で守りをしていました。秋葉家10人、親戚一人、姐さん4人とわたしが住んでいました。

水が1階のガラス戸を壊し座敷に入ってきて、2階に駆け上がりました。そのうち天井が落ち、電気が消えて真っ暗になりました。明かりをたよりに上がっていくと足に人の髪の毛が触り、その人を引き上げ一緒に逃げました。気がつくと水天宮の大きな木の下で、磐井橋に詰まっていた流木の上を歩いて山目側に渡りました。目の前の木々が橋の下に吸い込まれ、次は自分たちかと思っていると、誰かいないか」の声。助け出された瞬間、さっきまであった木が流されていったのです。

秋葉家の人は全員亡くなり、姐さん一人、親戚とわたしだけが生き残りました。あれから60年。今でも位牌と衣類をリュックに詰め、いつでも逃げられるようにと準備をしています。



千田きや子さん(83)
アイオン台風で流され、磐井橋付近で救出された。中央町。

伝えたい、あの記憶



上／東北本線の線路上に流木の山(アイオン台風)
中／釣山より撮影した水没した一閃。右手は一閃町、左手は山目、右奥は束稲山(カスリン台風)
下右／磐井橋地主町側、水天宮前の大ケヤキ(左奥)は47人の命を救いました(アイオン台風)
下左／地主町中央部。小・中学生も復興に努めました(アイオン台風)

市の中央部を滔々と流れる大河、北上川。古くから、大きな恵みと恐ろしい水害の両方をわたしたちにもたらしてきました。昭和22年のカスリン台風、同23年のアイオン台風により、一閃地方は2年連続して大水害に見舞われ、多くの尊い命を失うなど未曾有の損害を被りました。今年はその60年の節目の年。その記憶を風化させることなく後世に伝え、災害に強いまちをみんなでつくる。それが、今を生きるわたしたちの使命です。